

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈講演4〉日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある：シダーマ語(エチオピア)の場合

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河内, 一博 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000911

日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある： シダーマ語（エチオピア）の場合

河内 一博（防衛大学校 准教授）

かわち かずひろ

防衛大学校総合教育学群准教授。専門は、意味論、統語論、形態論、シダーマ語、クプサビニ語。著書に「アフリカ諸語文法要覧」（共著。漢水社、2012年）など。



エチオピアのシダーマという言語とウガンダのクプサビニという言語の研究をしています。今日はシダーマ語の話です。片仮名で書くと「シダーマ」になってしまいますけれども、*Sidaama* (*sida:ma*)です。

今日の話の内容は、日本語は特殊であると言われますが、日本語とよく似た現象が、系統的にも地理的にも違う言語に見られるということです。このことを日本語とシダーマ語の比較を通して、特に人魚構文に焦点を当ててお話したいと思います。

この話の構成は、1番目として「はじめに」、2番目として「シダーマ語の文法構造の特徴（日本語の文法構造との比較を通して）」、3番目に「シダーマ語の人魚構文」、4番目に「まとめ」となっています。

◆はじめに

はじめに三つのことについてお話します。日本語の特異性についての以前の記述、言語類型論とアフリカの言語の研究、それから、シダーマ語についての情報です。3番目に少し時間を使って話します。

1. 日本語の特異性に関する以前の記述

日本語は世界の言語と比べて非常に特殊であるという考えがよくあります。それから、日本語を特にヨーロッパの言語と対比させてみると、あたかも日本語とヨーロッパの言語は両極端を成しているように

見えるかもしれませんが、世界には記述されていない言語がたくさんあります。多くの言語を見てみると、「日本語は特殊だ」、あるいは「言語が極端なタイプを成している」ということを言うことはできないわけです。このような考えに対しては、角田先生が『世界の言語と日本語』で批判していらっしゃいます。

2. 言語類型論とアフリカの言語の研究

言語類型論についての話をこれまで発表者の方々がしてきましたが、言語類型論は、文法的な特徴によって、どのような言語のタイプがあるのか、どの言語にも見られるような普遍的な特徴があるのか、違った文法の特徴の間には何か関係があるのかといった研究をします。言語類型論は、もちろん今までに研究されて記述された言語のデータを基にしています。

記述されていない言語の研究は非常に重要です。その理由として、新しい発見によって、言語類型論の主張が全く変わってくる可能性があるということがあります。世界の言語の4分の1以上が、アフリカで話されているといわれているのですが、そのほとんどが研究されていません。

研究が進んでいない言語を調べていて、今までに当然と思われているような事柄を覆すような現象や、今までに記述されている言語にはないようなパターンが見付かると、もちろん最高に楽しいのですが、系統的・地理的にも全く遠い言語の間に、類似



写真(1)

性が見られた場合も非常に面白いわけです。今日は2番目について話します。

3. シダーマ語に関する情報

エチオピアは日本の面積の3倍、人口は日本より少し少ないですが、86民族が住んでいます。首都アジス・アベバはドバイから4.5時間ぐらいです。エチオピアでは、(フィリピンと比べると少ないですが、)80を超える言語が話されています。公用語はアムハラ語です。特に南西部に言語は固まっています。エチオピアは68の行政のゾーンに分かれています。シダーマ・ゾーンはアジス・アベバから南に300km弱です。



写真(2)

シダーマ語は主に話し言葉で、書き言葉の体系はあるのですが、実際に書いている人はほとんどいません。2005年の調査では、シダーマ語の話者は300万人で、その8割以上がモノリンガルでした。高地と低地に分かれており、高地の方が伝統的なシダーマ語であると考えられていて、低地の方はかなりアムハラ語の影響を受けています。

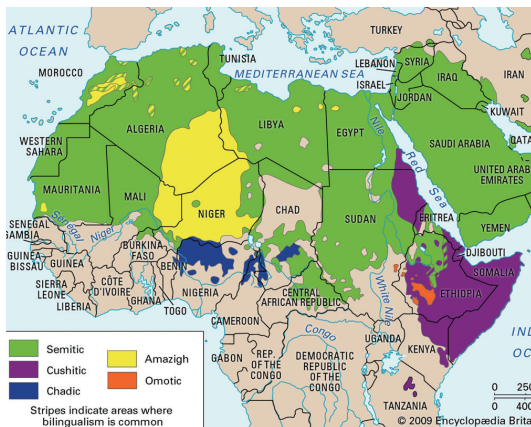
高地*Bansa*が主な私の調査地で、話し手は高地の方言を話します。*Bansa*は写真(1)、(2)のような農村です。家の中は写真(3)のようになっています。

アフリカの言語はかなり違います。地理的な言語接触によってかなり似てきているという意見が多いのですが、私の見る限りでは、シダーマ語とバントウの言語などと比べてみると、かなり違います。シダーマ語はアフロ・アジア大語族のクシ語族に属します。アフリカにはその他、ナイル・サハラという語族、そして、バントウを含むニジェール・コンゴという語族があります。それからコイサンがあります。

地図はアフロ・アジア大語族のものですが、アフリカの北の方です。紫色のところがクシです。セム語派などと比べると、かなり特徴が違ってきます。シダーマ語はハイランド・イースト・クシに属します。ハイランド・イースト・クシの文法はあまり研究されていません。



写真(3)



地図 アフロ・アジア大語族(紫部分がクシ使用圏)

kids.britannica.com

Afro-Asiatic languages: distribution of the Afro-Asiatic languages.

<http://kids.britannica.com/elementary/art-19263/Distribution-of-the-Afro-Asiatic-languages>

シダーマ・ゾーンの境界のところはかなり危険で、ほかの民族と、特に放牧地や水を巡って対立しています。

シダーマのほとんどの人が農業に従事していて、特にコーヒーを栽培しています。それから、Weeseという、写真(4)、(5)のようなバナナ科の植物を、いろいろな目的に使うのですが、その根を写真(6)のようなぬか状にして食べるのです。中に肉や野菜が入っていて、これは見かけによらず酸っぱく、あまりお



写真(4)



写真(5)



写真(6)

いしいとは言えません。

◆シダーマ語の文法構造の特徴 (日本語の文法構造との比較)

次に、シダーマ語の文法構造についてご紹介します。日本語と違う点、似ている点について話しますが、その前に基本的な文のタイプを見てみましょう。

自動詞の例文の音声をかけてみます。

例文 (1): *ise dīwan-t-anno*.

ise は「彼女が」という主語です。

dīwan- という部分が動詞です。-*t* が(アイヌ語に似ていますけれども、)3人称女性の主語の接尾辞です。主語がシダーマ語の場合には動詞の接

	通常 使われる語	Bališšaの 形式
コーヒー、[男性の名前]	buna	č'ork'e
バター	buuro	išeečča
魔術師	buda	suda
悪い	buša	suša
[男性の名前]	tuna	šuna
[女性の名前]	bune	šune/sune

表1 バリッシャ(Bališša)の例(義父の名前が *buna* の場合)

文字どおりには「彼が彼女に服を洗った」という形を取っているのですけれども、意味としては「彼が彼女の服を洗った」になります。実はこの文は曖昧で、「彼が彼女のために服を洗った」という解釈も可能です。2種類の解釈があるということです。このように、シダーマ語で一つの文が、二つの構文に解釈される場合がかなりあります。

それから、バリッシャというシステムがあります。結婚している女性と、義理の父親・母親の関係でのタブーに関するものなのですが、結婚している女性は、義理の父親・母親の名前を呼ぶことができません。さらに、その名前に似たような音を持つ語を発することもできないのです。それを避けるために、手段としては類義語を使います。類義語がない場合には、個々の語に定められた、バリッシャというシステムの形式を使うわけです(表1参照)。

例えば、義理の父親の名前が *buna* という名前だった場合、*buna* はコーヒーという意味も持つのですけれども、この *buna* という言葉を発することができません。そのため、「コーヒー」と言うには *č'ork'e* という形式を使います。同じ意味を表すのですが、音が違うのです。「バター」の場合には *buuro* の代わりに *išeečča* を使います。

もしも結婚している女性の名前が、*bune* という名前だった場合には、*bune* と *buna* が似ているので、

「あなたの名前は何ですか」と言われたら、*bune* と言えないのです。その場合、*šune* や *sune* と言わないといけません。これは文法というよりは、むしろ語彙的なものです。

2.日本語には見られるが、シダーマ語には見られない現象

日本語にはあるけれども、シダーマ語には見られない現象として、「外の関係」の関係節があります。「魚を焼くにおい」は、「においで魚を焼いた」とは言えないのですが、このような関係節は使えません。それから、主題マーカの「は」のようなものは存在しません。助数詞のようなものも存在しません。

3.両言語にあるが、違いが見られる現象

それから、両言語にあるけれども、違いが見られるような現象として、主語の省略があります。ただし、シダーマ語では、主語の情報が対述語に表されており、動詞の接尾辞として情報がありますので、少し違います。それから、動作主を表さないようにする構文があります。また、敬称があるのですが、既婚の女性だけが使います。それから、敬語の形式として、2人称単数を表すのに2人称複数の代名詞と動詞をシダーマ語では使います。それから、現在の状態を、状態変化の動詞の完了形で表します。シダーマ語では、一貫して「今暖かい」を、「暖かくなった」という完了形で表します。

それから、「なる」という語をよく使うのですが、「私たち来月結婚することになりました」とシダーマ語で言えるのです。また、「明日雨が降るようなことになったら」「合計金額は100ブルになります」とよく日本語で言いますが、シダーマ語でもこのように言います。さらに「今何時か」と言われた場合でも、「今3時です」を *t'a honse saate*

ikk-ø-ino. 「今9時になりました」(今3 時 なる-主語:3人称.単数.男性-遠完結相.3人称)と表すのです。これが普通の言い方です。(9時は、エチオピアの時間のシステムでは3時なのです。6時から12時が始まる日時計のシステムを使っているためです。)

◆日本語と似ている点

日本語と似ている点です。これは、明らかに日本語に似ているものと、そうでないものがあるのですが、このスライドでは日本語以外のほかの言語にもよく見られるような現象のものをなるべく先に置きました。接尾辞を使うこと、対格型の格の標示があること、それから、「私に～がある」というような所有の構文があることです。そして、空間移動や状態変化を表すのに、先に様態や原因を持ってきて、その後に移動あるいは結果を表すというパターンを取ります。

それから、主語-目的語-動詞の語順を取ります。名詞を修飾する場合、その名詞の修飾語が名詞の前に来ます。これはありふれているので、面白くないことをわざわざ書いたなと思われるかもしれませんが、多くのアフリカの言語とは違うのです。エチオピアの言語はかなりこのパターンを取ります。

それから、言いさしと呼ばれるものです。「たら」

「ば」「と」など、言い切った主動詞の形式ではなくて、発話を終える構文です。「明日晴れたら」、「勉強したら」で、願望や提案などを表すことができます。これは日本語よりも、もしかしたら多いかもしれません。それから、「て」です。「コーヒー作って」と言うこともできるし、「テーブルの上にコーヒーを置きましたので」とも言えます。逆接の「けど」は、いらだちを表したり、謙虚さを表したり、あるいは「～してくれませんか」という依頼を表したりします。「アマロ先生、ダングラ君が僕のじゃまをするのですけど」と、ここで文を終えることもできます。

それから、これはよく日本語の特徴だと言われるのですが、イベントが不完全であるという場合で、「電話をかけたけど、出なかった」と言うことができます。あるいは、物体と場所の区別をしているのです。「～に行く」と言うことはできるのですが、人や物体を表すものが移動の目的地である場合には「花子に行った」とは言えないのです。「花子の(いる)ところに行った」と言います。それから、「二つくらい下さい」「コーヒーなどいかがですか」というような曖昧な表現もあります。

◆これまでのまとめ

これまでのようにいろいろ比較してみると、類似点かなりあります。けれども違っていますから、これらの言語は同じ系統ではないか、あるいは一方がもう一方の起源ではないかなどと言うことはできないわけです。ここで言えるのは、日本語は特殊ではないということです。それから、このような文法の特徴を基にして「日本語は極端なタイプだ」と言うことはできないわけです。

ひょっとすると、この程度にしか言えないのか、あるいは類似点と

- 接尾辞(使役の接尾辞など)
 - 対格型の格の標示
 - 「... に ... がある」という所有の構文
 - 空間移動や状態変化を表すのに使う複数の動詞の構文 (「走り出る」、「砕け散る」)
 - (主語 -) 目的語 - 動詞の語順
 - 修飾語・句・節 - 名詞の語順
- } 他多くのアフリカの言語とは違う

日本語と似ている点

相違点があるのは当たり前だし、どこからどこまでをもって類似していると言えるのか、分からないではないかと思われるかもしれません。しかし、日本語とほかの少数のアジアの言語にしか見られないといわれていた現象が、シダーマ語にあるのです。その例が人魚構文です。

◆シダーマ語の人魚構文

人魚構文は節、名詞、述部マーカというパターンを取ります。シダーマ語には三種類の人魚構文があるのですが、時間がないので、ここでは二種類だけ、*gara*構文と=*gede*構文、さらにそれらのうち、述部マーカとして=*ti*を使うものだけについて説明します(表2参照)。

節		名詞	述部マーカ
(主語	動詞)		
太郎が	来る	予定	だ。
(i) <i>gara</i> 構文		<i>gara</i>-a	= <i>ti</i>.
(ii) =<i>gede</i> 構文		= <i>gede</i>-e	= <i>ti</i>.
(iii) 与格・場所格構文		-ra-a	= <i>ti</i>.

人魚構文

	<i>gara</i>	= <i>gede</i>
文法的な性を持つ	○	×
修飾語によって修飾される	○	×
形容詞としての用法	○	×
属格で使うことができる	○	×
項を構成することができる	○	○/×
奪格道具格と与格場所格の接尾辞を伴うことができる	○	○
「ように」を表す副詞句・節を作ることができる	○	○
継続した様態を表す構文で使うことができる	○	○
原因や譲歩を表す節を作ることができる	○	○
人魚構文を形成することができる	○	○
目的を表す節を作ることができる	×	○
補文標識として使うことができる	×	○
比較の構文で「と同じように」を表すマーカとして使うことができる	×	○

表2 *gara* と=*gede* の比較(1)

まず、*gara*構文で、名詞のスロットに*gara*という名詞を使います。*gara*は「方法」あるいは「様子」を表す名詞です。=*gede*構文の名詞のスロットに用いられる=*gede*は「ように」を表す後接語です。名詞よりもっと文法化されたものです。

*gara*は名詞で、=*gede*は後接語です。この二つの形式が似ているのですが、全く関係のない形態素です。*gara*の方は、名詞だけれども、文法的な用法があつて、=*gede*の方は、より文法的なのですが、名詞的な用法がある後接語です。表2は *gara* と=*gede*を比較したのですが、表の上の方が名詞的な特徴です。表の下の方が、より文法的な特徴です。=*gede*は英語の*that*節の*that*のように使うこともできます。

主語は常に三人称で、普通、生き物(たいてい人間)です。そして、どちらの人魚構文も「～が～するようだ」という意味を表すのですが、動詞のアスペクトに違いがあつて、*gara*の人魚構文の方は未完結の動詞にしか使えず、未完結の動詞は習慣の解釈に限られています。一方、=*gede*の人魚構文の方はそれ以外のアスペクトの動詞に使えるのですけれども、=*gede*の人魚構文は未完結の動詞と使う場合は未来の解釈に限られています。

*gara*構文は「習慣的に～するようだ」という意味を表します。話し手が節で表されている出来事が習慣的に起こることを推測しています。ここで聞いてみましょうか。

例文 (6) (音声):

ise diwan-t-anno gara-a =ti.

ise diwan-t-anno. は「彼女が病気になる」という意味なのですが、=*ti*は「～である」という述部マーカです。この構文では習慣の解釈に限られますが、これは本当に人

・gara 構文の例 (未完結相:習慣)

(6) ise dīwan-t-anno gara-a = ti.
 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女は(習慣的に)病気になるようだ。」←この構文で、未完結相は習慣の解釈に限られる。

・=gede 構文の例(未完結相:未来)

(7) ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.
 彼女が 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称-ように-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ。」←この構文で、未完結相は未来の解釈に限られる。

例文(6)、(7)

	アスペクト
(i) gara 構文	未完結相(習慣の解釈)
(ii) =gede 構文	未完結相(未来の解釈)、 近完結相、遠完結相、継続相、進行相

表3 garaと=gedeの比較(2)

可能性1: 主語の ord-u 「見かけが」が省略された

(8) ord-u ise dīwan-t-anno
 見かけ-主格.男性→省略? 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称
 gara-a = ti.
 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(習慣的に)病気になるようだ。」(文字通りには、「見かけが、彼女が病気になる様子だ。」)

可能性2: ordó「見かけにおいて」が省略された

(9) ise ordó dīwan-t-anno
 彼女が 見かけ.斜格(において)→省略? 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称
 gara-a = ti.
 様子-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(習慣的に)病気になるようだ。」(文字通りには、「彼女が見かけにおいて病気になる様子だ。」)

可能性3: lab-b-anno-’e = hu 「私に思えるのは」が省略された

(10) lab-b-anno-’e = hu
 見える.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称.目的語:1人称=名詞句形成.主格→省略?
 ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.
 3人称.単数.女性.主格 病気になる.主語:3人称.単数.女性.未完結相.3人称-ように-長母音化=述部マーカー
 訳:「彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ。」
 (文字通りには、「私に思えるのは、彼女が病気になるようだということだ。」)

例文(8)–(10)

人魚構文の典型です。

それから、=gede構文ですが、=gedeは、garaよりも文法化された形態素です。先ほど申し上げたように、習慣以外のアスペクトを表すことができるので、「これから起こるようだ」「すぐに起こったようだ」「現在これから起こりつつあるようだ」といったアスペクトの形式を持つ動詞を使うことができます。

例文(7)(音声):

ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.

これは=gedeの構文の例です。=gede構文は、ほかのアスペクトの形式を使うことができますが、こ

の例文のように未完結相は未来の解釈に限られます(表3参照)。

1.なぜシダーマ語に人魚構文が存在するか?

なぜ人魚構文が存在するのかと考えた場合、まず第一にどうやらほかの構文の一部を省略することによって、使っているのではないかと仮説を立てることができます。ordo「見かけ」という名詞があるのですが、例文(8): *ord-u ise dīwan-t-anno gara-a = ti.* 「見かけが彼女が(習慣的に)病気になる様子だ。」や *ord-u ise dīwan-t-anno = gede-e = ti.* 「見かけが彼女が(未来のいつかに)病気になるようだ」の *ord-u* 「見かけが」(見かけ-主格.男性)という主語の部分を省略すると、先ほどの人魚構文になるのです。

2番目の可能性として、ordó「見かけにおいて」(見かけ.対格/斜格)

という対格/斜格の名詞句を被所有物として使った外的所有構文があるのですが、例文(9): *ise ordó dīwan-t-anno gara-a = ti.* 「彼女が見かけにおいて(習慣的に)病気になる様子である」や *ise ordó dīwan-t-anno = gede-e = ti.* 「彼女が見かけにおいて(未来のいつかに)病気になるようである」というような文から ordó「見かけにおいて」を省略したと考えることもできなくはないということです。

3番目の可能性として、分裂構文と呼ばれる強調構文の主語の省略です。lab-b-anno-’e = hu

「私に思えるのが」を主語にして分裂構文を作ることができます。例文 (10): *lab-b-anno-e = hu ise diwan-t-anno = gede-e = ti*. 「私に思えるのが、彼女が(未来のいつかに)病気になることである」と言うことができます。先ほど = *gede* は *that* 節の *that* のように使われると申し上げましたが、この強調構文の主語の部分を省略したのが *ise diwan-t-anno = gede-e = ti*. ではないかと解釈することもできるわけです。

さらに、これまで扱ってきた人魚構文の起源ではないかと思われるような文ですが、人魚構文と同じように、主語の人称、有生性、アスペクトなどに制限があります。

2. シダーマ語の人魚構文が存在するという ことから分かること

日本語などのアジアの言語の人魚構文から、ひょっとしたら人魚構文は主題のマーカー、あるいは外の関係の関係節がある言語に限られているのではないかという仮説を立てるかもしれませんが、いや、シダーマ語はそうではないのです。もしかすると、人魚構文を使う動機はシダーマ語と日本語では違うのかもしれません。

一方、人魚構文を持つ他の言語と類似した点もあります。*gara* と = *gede* の構文については、どうやら名詞の文法化が関わっているようです。そして、ある言語に少数の人魚構文があった場合には、その人魚構文が表す意味は話し手の出来事に対しての、推測、推量であることが多いのですが、これもシダーマ語の人魚構文に当てはまります。

◆まとめ

ここでまとめます。ほかの言語には存在しない現象をデータで示さない限り、「日本語は特殊である、極端なタイプである」と言うことはできません。それから、アジアにしかないといわれた人魚構文は、少数

ですけれども、シダーマ語にも存在します。ほかの多くの言語を見てみない限り、日本語の類型的な特徴を理解することはできないので、日本語の理解にとってほかの言語の研究は重要です。どうぞご清聴ありがとうございました。